

石高神社

第三十六号

発行日 平成二十九年十二月一日
発行者 石高神社 宮司 高原 章兆
発行所 岡山市中区円山八五三
電話 〇八六一二七七一九〇〇三

神社の起源 ②

磐座から社殿へ

一般の神社に社殿建築が広まるのは、平安時代中期以降とされています。それまで、ほとんどの古代神社は社殿建築をもっていませんでした。神は高い山の峰に坐すという基本概念があり、山の峰にある大きな岩や樹林などの自然物そのものが神社でした。神は人智を超えた畏れの対象であり、高い山は人間の生活空間とは隔絶した自然空間だったからです。神の坐す場所と人が祭る場は本来別のものなのです。祭るところだけが山麓に設けられることもあり、祭った後、神も神を祭る場も里近くに移動して祭るようになり、ほとんどが神の坐す本殿のある神社になりました。

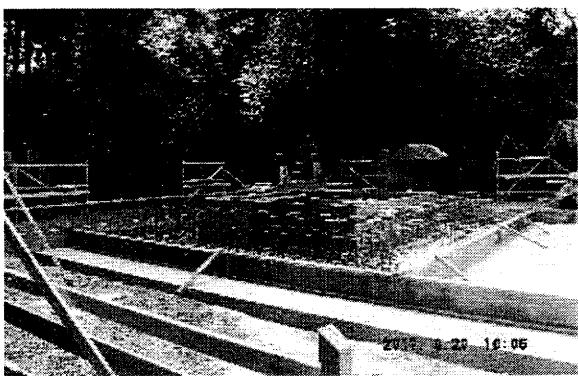
当社も三百年前に現在の地に移動する前には、高倉山（石鉄山）の嶺上にありました。そこには磐

座と思われる巨石が散在して平らになっており、神の坐す場と祭りの場であったことがうかがえます。

地震による被害

鳥取県中部
地震に学ぶ

この夏、昨年十月に起こった鳥取県中部地震被災地の神社を視察する機会がありました。大きな神社を三社見ただけですが、鳥居・灯ろう・玉垣などの石造物が倒れたままになっていたり、未だブルーシートを被せている屋根がありました。動いた未知の断層に近かった賀茂神社は、特に被害



本殿基礎が壊れた加茂神社

が大きく、本殿全壊、幣殿半壊、隨身門と社務所一部損傷、灯ろう二十基全壊・四基半壊、玉垣全壊などの被害を受けていました。

「被害は大きかったが、ちょうど秋祭りが終わった後だったし、人は地震直前に本殿から移動していた。被害の割には死人も出ず、神様がエネルギーを吸い取ってくださった。いろいろな人にいろいろな形で助けられた。」というような内容のことを宮司が言っておられたのが印象に残りました。

東南海・南海地震が起こると、中区の震度は五強から六弱になると想定されています。もし、鳥取県中部地震のような震度六弱クラスの地震が石高神社を襲ったとすると、少なく見積もったとしても、次のような被害が起こると想像されます。

- ① 灯ろう・玉垣・鳥居などの石造物の倒壊
- ② 拝殿・幣殿の屋根瓦の崩落など建物の一部損傷
- ③ 宮山斜面の一部崩壊

耐震化を進めるにも、膨大な費用がかかりますので、防災上どう対応して行けばよいのか悩みます。②については、地震が起らなくても瓦が落ちそうなので、何とか早めに直しておきたいと考えています。とにかくグラツキきたら、倒れたり崩れたりしそうな場所から離れてください。



地震にまつわる宮司の体験話

・平成十二年十月の鳥取県西部地震の起きた朝、伐採して放置してあったクヌギの木からカブトムシの幼虫が十匹くらい外に出て来ていました。動物が知らせた地震の前兆の例のひとつと考えられます。

・平成十三年の芸予地震の時、外に出て南の方を見ると、地面が波打っていました。

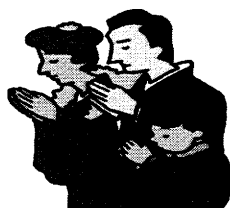
・鳥取県中部地震の時、新岡山港で釣りをしていたところ、倉庫の扉がガタガタなり始めました。その時はまだ揺れを感じなかったので、最初は何かかと思っていました。海に目を戻すと、恐ろしいほど海面が揺れ始めて、先の尖った異常な波ができていました。海で初めて見る波の形でした。



石高神社のおもな行事

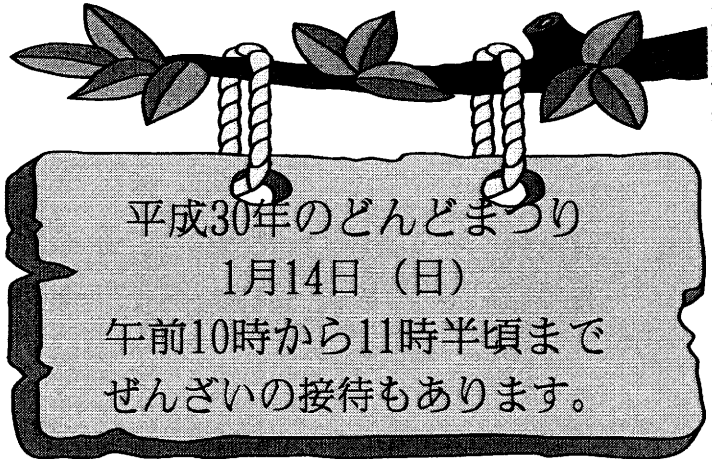
◎歳旦祭および初詣

一月一日午前零時より歳旦祭を行います。この直後の一時ごろまでと三が日の午前九時ごろから夕方五時ごろまで新年の家内安全祈禱を承っています。



◎ふしな祭および古神札焼却祭

毎年一月十四日以降の一番早い土日祭日に行っています。正月のお飾りのほか、同時に古い御神札・お守りの焼却も行います。なお、お飾りのビニール、プラスチック、金属類はなるべくはずしてご持参ください。当日は、はずす作業をした後に焼却します。古い御神札・お守りは、八日頃までにご納めください。



平成30年のどんどまつり

1月14日(日)

午前10時から11時半頃まで
ぜんざいの接待もあります。

◎厄祓い

厄年には、その年に災いが起こらないように、神社などでお祓いを受ける慣習があります。特に男四十二歳と女三十三歳は大厄といわれ、前厄と後厄を含めて前後三年間特別に気をつける年齢とされています。祝年には、長寿を家族でお祝いし、感謝と喜びを神さまに奉告します。祝い年は男女ともに同じです。一般には元日から節分のころまでにお参りします。

平成30年の厄年祝年

厄年祝年	生まれた年
女19歳	平成12年
男25歳	平成6年
女33歳	昭和61年
男42歳	昭和52年
還暦祝	昭和33年
古希祝	昭和24年
喜寿祝	昭和17年
傘寿祝	昭和14年
米寿祝	昭和6年
卒寿祝	昭和4年
白寿祝	大正9年

◎夏祭り(輪くぐり)

毎年七月三十一日の晩です。茅の輪をくぐることによって、疫病を予防して健康に過ごせるように祈る祭りです。年の前半の半年間の身の穢れ、心の罪を祓い清める夏越しの祓えの行事も兼ねています。

◎秋祭り

毎年十月三日から五日の三日間です。このうち三日の晩が氏子参りの日になっています。この日のみ夜店が出ます。五日には氏子総代が参列して祭典を行っています。

◎七五三詣で

氏神様にお参りし、ここまで成長したお礼を述べ、以後の無病息災を祈願する慣習です。十一月十五日前後にお参りします。

その他、初宮参り、当病平癒祈願、自動車清祓、家祈祷、地鎮祭、各種清め祓い、神葬祭など随時承つ

ております。お電話でご相談ください。宮司と権禰
宜の二名の神職でご奉仕しています。

境内の生物 ⑩ クチナシ

常緑の低木で、梅雨のころ、
径六センチくらい白い花が
咲きます。濃厚な甘い香りが
特徴的です。秋になると、赤
黄色の実をつけるのでわかり
やすい種類です。この実は沢
庵やきんとんなどの食品の色
づけに使われます。穴が開い
ているものには、虫が寄生し
ているので使えません。境内には、末社木野山神社
横など数カ所に生えています。



石高神社への道案内

当社の南側と西側には、石段を上がる参道があり
ます。自動車でお参りの場合は、宮山の東側を山に
沿って進むと北側から山に上がる道があります。少
し上った左側の空き地または右にもう少し上がった
本殿の裏に駐車できます。さらに南に進むことがで

ホームページ <http://ishitakajinja.web.fc2.com/>

きますが、行き止まりになります。正月の昼間には
混雑が予想されます。帰る方を優先に譲り合いをお
願いたします。また、宮山の東北のカーブは見通
しが悪いのでお気をつけください。

